

第1章 日高の漁業

北村 道雄

1.1 概要

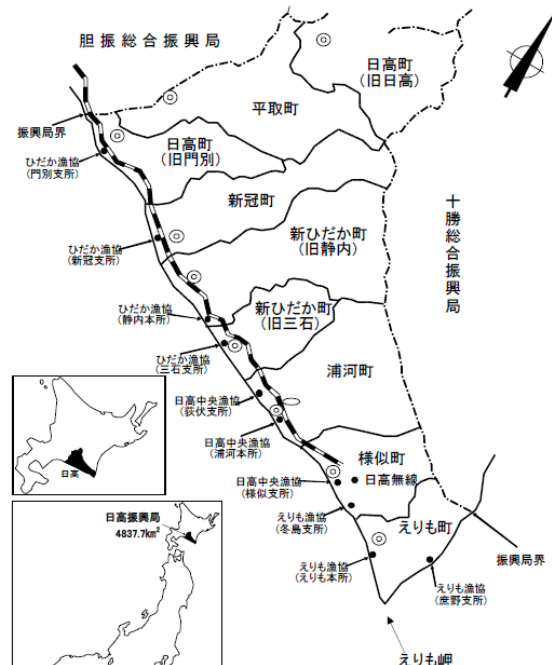
1.1.1 漁場について

日高の漁業は、日高町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町のそれぞれの海や河川を漁場とし、ひだか漁協、日高中央漁協、えりも漁協の3つの漁協と、様似さけ定置網漁業生産組合、日高無線漁業協同組合の全部で5つの組合からなっている。それぞれの組合の中に本所や支所を持ち漁獲や養殖を行っている。

1.1.2 漁獲生産について

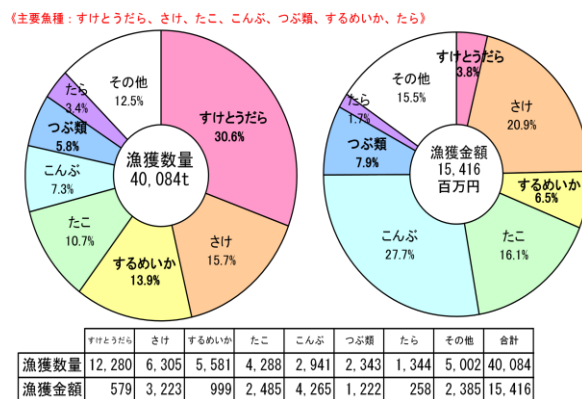
図 1-2 にあるように、2012 年の日高管内全体での漁獲生産量は 40084 t、漁獲高にして 154 億 1600 万円で、漁獲生産量は北海道全体の約 3%、漁獲高は 6%となっている。日高管内の漁場では一年中様々な種類の水産物が水揚げされる。春にはたこ、ほっき貝、夏にはかれい、こんぶ、秋はいか、さけ、ししゃも、冬はほっけ、きんきなどが水揚げされる。漁獲生産量でいえば図 1-2 にあるように、すけとうだらが最も多く漁獲され、次いで日高ブランドの「銀聖」の名前でも知られるさけ、するめいか、たこ、こんぶ、つぶと続いている。一方、漁獲高で見ると「日高昆布」として全国的な知名度もある、こんぶが最も多い金額となっている。特にえりも漁協では「日高昆布」の 6 割を生産し、こんぶ干しをす

図 1-1 日高管内の漁場



出所：日高振興局 HP

図 1-2 日高管内の主要漁獲種



出所：日高振興局 HP

る姿は地域の夏から秋にかけての風物詩となって、列車や国道からもその様子を見ることができる。金額高はこんぶに次いで、さけ、たこと続く。また、真つぶを日高の新たな水産ブランドとして育てていこうという取り組みも進んでいる。管内のつぶ類の漁獲量は、北海道全体で獲れるつぶ類の3割強、金額で約4割を占めている。

表1-1の市町村別漁獲状況を見ると、漁獲生産量は、浦河町が1番多く、漁獲生産量は、15668tで漁獲高にして29億9464万円となっている。生産量は日高管内全体の3分の1以上を占めている。一方、漁獲高で最も多くなっているのはえりも町で浦河町の2倍以上となっている。これは、ブランド品の「日高昆布」の多くを水揚げしているのが主な理由となっている。生産量・漁獲高ともに少なくなっているのが新冠町で、漁獲生産量が767tで漁獲高が3億8071万円となっている。

表1-1 日高管内の各町の漁業生産量（t）と漁獲高（万円）

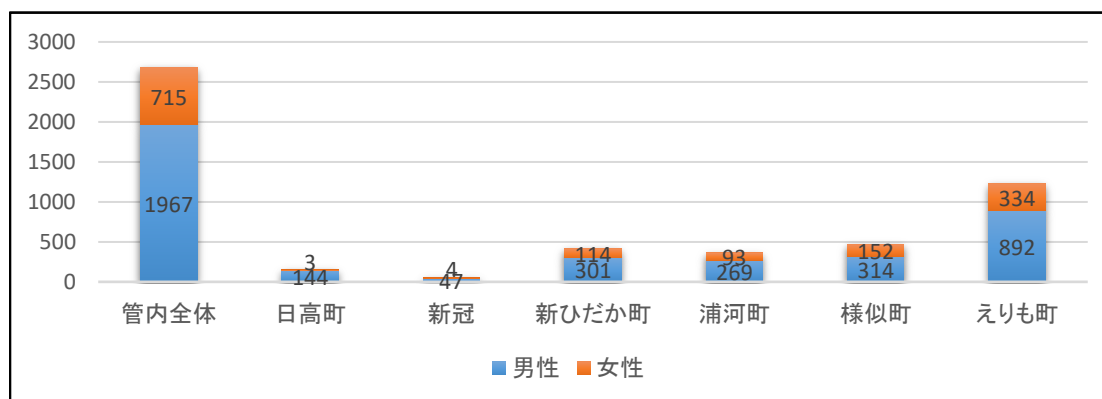
	日高町	新冠町	新ひだか町	浦河町	様似町	えりも町	合計
漁獲生産量	2543	767	4841	15668	4713	11552	40084
前年比	103%	88%	95%	129%	48%	101%	95%
漁獲高	99167	38071	196494	299464	238735	669694	1541625
前年比	98%	87%	95%	107%	92%	108%	102%

出所：日高振興局 HP より筆者作成

1.1.3 漁業就業者数

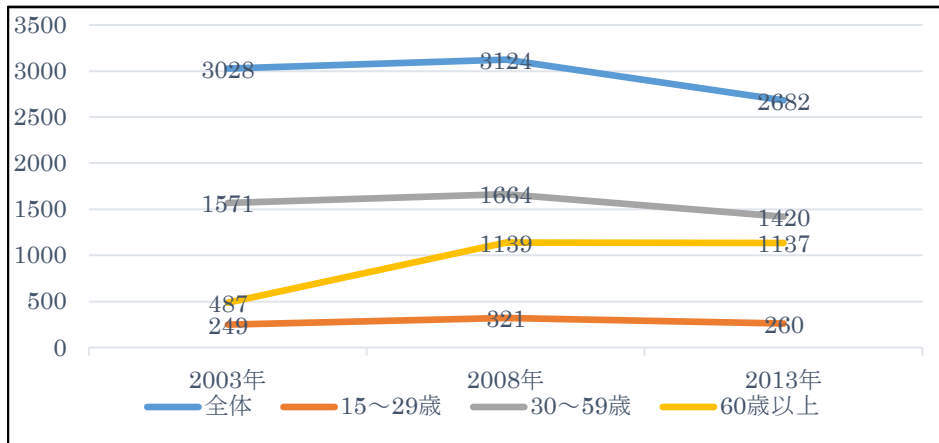
図1-3は2013年度の日高管内全体の漁業就労者数である。図からもわかるとおり、えりも町が全体の5割近くを占めている。また、日高の漁業者の特徴に、女性漁業就業者が多いことが挙げられる。全道の漁業就業者約3万人のうち4千人が女性であるが、日高では3千人のうち女性漁業者は千人にもなっている。つまり、北海道の女性漁業者の2割以上が日高の漁業就業者で、日高の漁業者は3人に1人が女性ということである。

図1-3 日高管内の漁業就業者数（単位：人）



出所：農林水産省 漁業センサスより筆者作成

図 1-4 年齢別漁業就労者の推移



出所：農林水産省 漁業センサスより筆者作成

図 1-4 は年齢別の漁業就労者の推移のグラフである。図を見て分かるように、漁業就業人口全体は減少している。また、15・59 歳の就業人口は減少している一方で、60 歳以上の就業人口は 2003 年の 3 倍近くの人数になっている。このため、2003 年からの 10 年で 60 歳以上の人口は大きな割合となっている。このように日高管内はもちろん、北海道全体で、特に水産業への若年層の就業者数が極めて低水準にとどまり、高齢化が進行していて、大きな課題となっている。これは、後継者がいないことによる廃業が大きな要因であり、今後労働力不足による生産の低下が危惧されている。

後継者問題の対策として、浦河町では 2012 年度より漁業の振興と地域社会の活性化を図るため、『浦河町漁業担い手等支援事業』漁業後継者や新たに漁業をはじめようとする就漁希望者および新たに漁業権を取得した漁業者（新規就漁者）に対し、支援事業を実施している。

1.1.4 日高ブランド

日高管内では日高でとれる主要漁獲種のうち、特に品質の高いものを厳選、付加価値を付けるなどして日高ブランドとして販売している。表 1-1 は主な日高ブランドである。

1.2 日高の水産業に関わる事業

1.2.1 日高管内元気な浜づくり事業

日高振興局では、将来の管内水産業を支えていく、漁協女性部や青年部を構成員とする「元気な浜づくり検討会議」を設置し、日高管内の水産業へ自らがどのように関わり、また、地域の活性化にどのように貢献していくのかを議論し、水産物の地元地域や大消費地での普及拡大を目指すとともに、加工業や外食産業などの様々な業界への普及のため勉強会や

表 1-1 日高ブランド

日高の真つぶ		正式和名でエゾボラというツブ貝である。エゾボラは、数多くあるツブ貝の種類の中で、最も大きく育つ貝で、生まれてから十数年かけて成長したものになると、大人でも両手のひらで抱えるほどの大きさにもなる。刺身で食べると味や食感がとても優れている。
王鰈		王鰈は、カレイ類の王様と呼ぶにふさわしい高級魚マツカワガレイであり、幻の魚といわれる。 王鰈は、北海道太平洋沿岸が日本における主分布地で、漁業協同組合などがマツカワをより身近に感じてもらえるようにと、公募し、選ばれたブランドネームである。
銀聖 (右の写真は認定された鮭に張られるラベル。)		鮭より旨い鮭と呼ばれるほどの秋鮭である。もともと日高沖の定置網で漁獲される秋鮭は、銀色に輝く魚体から「銀毛」と呼ばれ、脂ののりがよく、身が柔らかいと定評があった。そのうち日高で水揚げされるサケのうち僅か数%が厳しいいくつかの基準を満たし、「銀聖」と認定している。
日高昆布		日高昆布は日高の漁獲売上高1位となっている。生産されるそのほぼ全てが天日乾燥していることが特徴に挙げられる。詳しくは2章「昆布」を参照していただきたい。

出所：日高振興局 HP より筆者作成

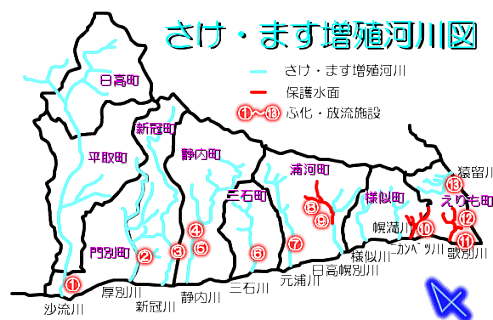
実践的事業などを複合的に実施する独自事業として、取り組まれてきた。2003 年度から2005 年度の期間には「埋もれた食材」をキーワードに「日高管内元気な浜づくり事業」に取り組んだ。「埋もれた食材」とは、各浜で商品価値がなく漁獲対象となっていない魚種、賄いのためだけに漁獲している魚種、また、残渣として捨てられていた部位など、未利用、低利用な水産物である。こうした「埋もれた食材」に目を付けたのが、地元の漁協の女性連

である。先述したように、日高の漁業者は、女性漁業就業者が多い。この女性漁業就業者が、日高地区漁協女性部連絡協議会（女性連）を組織し、「日高管内元気な浜づくり事業」の中核を担った。女性部の「もったいない」という声が「埋もれた食材」の新たな加工、商品化を生んだり、地元料理教室での活動につながったりした。こうした努力が、消費者が日頃から安全・安心にこだわって頑張っている生産者を選ぶ第4回コープさっぽろ農業賞漁業部門奨励賞（2007年）に選ばれる結果となった。また、さらに多くの様々な活動を継続して行った結果、第7回でも再度コープさっぽろ農業賞漁業部門奨励賞（2010年）に選ばれた。

1.2.2 増殖事業（栽培漁業）

日高の管内の重要水産資源であるさけ・ますについては、国・道及び民間団体の協力体制のもと人工ふ化放流による増殖対策が進められている。増殖事業は、日高管内さけ・ます増殖事業協会を中心に行われている。2013年4月1日から、社団法人から一般社団法人に移行した。2013年の日高振興局管内のさけ親魚捕獲及び採卵数は144526尾で、2004年から過去10年の結果と比べ捕獲数で1位、採卵数は4位となった。図1-5はさけ・ます増殖河川と

図1-5 さけ・ます増殖河川図



出所：日高振興局 HP

ふ化・放流を行っている施設がわかる河川図である。現在、増殖事業は13施設が整備されている。しかし、いまだ不十分で、新規施設や既存施設の充実が望まれている。

また、さけ・ます以外にも増殖事業は行われている。取り組みの一つとして、人工種苗生産及び種苗放流が行われている。代表的なものには、ハタハタ、マツカワ（王鰈）、エゾボラ（マツブ）、エゾバフンウニ、ウバガイ（ホッキ）、クロソイなどがある。

1.2.3 三石マリナビジョン計画

新ひだか町では北海道マリナビジョン21に基づき、2005年より三石マリナビジョン計画を行っている。北海道マリナビジョン21とは日本の水産、食料供給基地として、地域の資源を活かしながら、多様な主体の連携・協働により活力ある水産業や漁村の実現を図るため、概ね10年後を通過点として、その先の目指すべき姿を定めた長期的目標である。2015年は策定から目安の10年ということもあり、以後10年の新たな目標を定めるため、内容の見直しと協議会自体を機能的な組織として再編し、役員の互選が行われた。この計画で具体的に小中学校への出前授業や「三石マリナビジョン通信」で、定期的に活動を町民に報告している。

参照 HP

- ・北海道 HP 日高振興局 日高の丸ごと情報館

<http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sis/gyosei/>

- ・北海道ひだか漁協 HP

<http://www.jf-hidaka.jp/>

- ・農林水産省 漁業センサス報告書(2013,2008,2003)

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/fc/2013/2013fc.html>

- ・浦河町 HP

<https://www.town.urakawa.hokkaido.jp/business/suisangyou/shinkishugyou-1.html>

- ・えりも漁業協同組合 HP

<http://www.jf-erimo.or.jp/>

- ・新ひだか町 HP

<http://www.shinhidaka.hokkaido.jp/>